

文学部 英文学科

Study



University
of Victoria

Abroad



Program

CONTENTS

英文学科スタディ・アブロード・プログラムについて	1
SA プログラムの単位認定、スケジュールについて	2
出発までの準備について	3
Dublin City University	4
University of Victoria	6
SA プログラム参加体験記	8
SA プログラムのサポート体制について	10
英文 SA 単位読み替えに関するガイドライン	11

スタディ・アブロード（SA）プログラム

英文学科のみなさん、在学中に英語圏に留学しませんか。
密度の高い英語の授業と異文化体験によって、
世界に通用するコミュニケーション力と適応力が身につきます。

（1）夏期 SA プログラム (Dublin City University)

アイルランドにあるダブリンシティ大学での約3週間の語学研修プログラムです。英語圏で生活し、他国からの留学生と机を並べて勉強することによって、英語力を集中的に身につけ、英語文化への理解を深め、帰国後の勉強意欲を高めることが目的です。

（2）秋学期 SA プログラム (University of Victoria)

カナダにある名門総合大学。ヴィクトリア大学での約4か月間の語学研修プログラムです。優れた教育施設で、カナダの豊かな文化と自然に触れながら英語を学習することで、語学力を向上させるとともに、帰国後の英語と英語文化の学習への意欲を高めることが目的です。
また、ホームステイで現地の家族と交流することを通して、コミュニケーション能力を高め、異文化理解を深めます。

■出願資格

- 英文学科に在籍し、所定の審査を通過した学生
- 心身ともに健康で、海外での生活に順応できる学生
- SA 出発までに実施される説明会やガイダンス、帰国後の報告会などに参加できる学生

■選考方法

夏期 SA プログラム (DCU) と秋学期 SA プログラム (ヴィクトリア) とでは、選考方法が異なります。

①夏期 SA プログラム (DCU)

応募者が募集人数を超えなければ、原則として、書類だけで選考します。

②秋学期 SA プログラム (ヴィクトリア)

応募人数にかかわらず、書類選考と面接試験を行います。書類選考では大学での成績や英語力を中心に、面接試験ではコミュニケーション能力、勉強意欲、志望動機などを中心に、長期の留学に適しているかどうかを判断します。

※選考後に参加をキャンセルした場合、キャンセル料がかかる場合があります。

SAプログラムの単位認定について

英文学科が実施する SA プログラムは 2 カ国 2 コースからなります
 いずれも、現地プログラムで所定の評価を得て、
 帰国後に実施される面接や報告会などに出席することにより、
 本学の卒業所要単位として認められます。
 ※詳細は最終頁「英文 SA 単位読み替えに関するガイドライン」にて
 確認してください。



Dublin City University (DCU)

8 月に約 3 週間のコースとして開講される
 General English コースに参加します。
 平日の午前中は英語力向上の授業を行い、授業
 後は文化活動や現地見学も予定されています。
 週末には、アイルランド各地への日帰り旅行に
 参加できるほか、自分の時間を使って自由に探
 索することも可能です。帰国後、所定の手続き
 や審査を経て、英文学科「選択必修 B」に配置
 されている「海外英語演習」4 単位が認められ
 ます。参加者は必ず春学期の履修登録期間内に、
 「海外英語演習」を履修登録する必要があります。



University of Victoria

約 4 カ月間のコースを受講します。英語力向
 上を目指したカリキュラムで、自由時間の文
 化体験活動等も充実しています。
 帰国後、ヴィクトリア大学で履修してきた科
 目は、文学部教授会で審議のうえ、単位が認
 められた場合、同系統の専門科目「SA 認定科
 目(A・B・C)」または ILAC 科目「English 3-
 II」に読み替えて卒業所要単位となります。
 認定単位数の上限は 22 単位です。

スケジュール

選考年度

10 月下旬～11 月中旬	説明会
10 月下旬～11 月中旬	出願期間
11 月下旬～12 月上旬	選考
	結果発表
	渡航先決定

実施年度

3～5 月	ビザ・渡航説明会 事前指導
7～8 月	海外旅行保険説明会 危機管理ガイダンス・ 直前ミーティングほか
8 月（または 9 月）	出発
(※夏期 SA に参加希望の 1 年生は 4 月に 募集・出願・選考)	

参加決定後～SA出発までの準備

①パスポートの取得（説明会で指示）

参加決定後、パスポートは各自で取得します。（取得費用は各自の負担です）。すでにパスポートを持っていたとしても、SA期間前や期間中に有効期限が切れる場合は、出国前に自分で更新手続きをする必要があります。

②SA先大学入学願書等必要書類の作成・提出（選考年度の2月以降）

SA先大学への入学願書を記入して国際交流課に提出します。その他SA先によって必要な書類がありますので、順次、準備を進めていきます。

③ビザ・渡航説明会（実施年度の3月～5月）

SA参加にあたって学生ビザの取得が必要となるため、ビザ取得に必要な書類の説明をするガイダンスです。各種証明書や書類などを各自で準備する必要があります。

④先輩との交流会（実施年度の3月～6月）

昨年度SAに参加した学生から、SA先大学の様子や、現地での具体的な生活状況や授業の様子などを聞くことができます。

⑤海外旅行保険説明会（実施年度の5～6月頃）

SA参加者が必須で加入する、大学指定の海外旅行保険の説明会を行います。

⑥危機管理ガイダンス（実施年度の7月頃）

留学中に思わぬアクシデントに見舞われた場合、どのように対処すべきか等について、危機管理の観点から説明を行います。

⑦英文残高証明書（実施年度の4月頃から）

アイルランド（DCU）の場合入国管理局の指示により、金融機関が発行する本人名義の英文の残高証明書が必要となります。これは留学中の支払能力を証明するもので、2024年度UCD夏（2024年度まで実施していた夏季SA）は€500以上でした。

（証明書発行後の預金移動は可能です。）

※2025年から90日以上長期滞在者向けの必要額が変更（増額）となっているため、関連してDCU夏季SAの必要額も€500から増額になる可能性があります。

詳しくはSA説明会やガイダンスで説明しますが、余裕をもった資金準備をお願いします。

⑧SA費用の支払い（実施年度の7月頃）

各プログラムのSA費用と奨学金については、それぞれ次ページ以降の大学ごとのページに実績額を記載してあります。参加費用は為替レートや航空券代・燃油代の変動により、大きく変動しますので、余裕を持った資金準備をお願いします。SA費用は、2回に分けて納入していただきます（出発前の7月頃、出発後の12月頃）。2回目の費用請求をもって最終的な金額確定とさせていただきます。奨学金は所定の申請後にお振込、もしくはは費用と調整します。

⑨直前ミーティング

出発の約2週間頃前に行われるガイダンスで、当日の集合場所を含め、SA出発に向けた最終案内をします。

Dublin City University

基本情報



【所在地】アイルランド ダブリン州グラスネヴィン

【受入機関】ダブリン・シティ大学 (Dublin City University, DCU)
インターナショナルアカデミー

【対象】夏 期：英文学科の1年生以上

【参加人数】夏 期：25名

【留学予定期間】夏 期：8月上旬～8月下旬（約3週間）
（留学期間に変更になる場合があります。）

【宿泊施設】

DCU キャンパス・レジデンス（シャワー・トイレ付個室、リビング・キッチン共有、Wi-Fi 完備）

■大学概要

ダブリンシティ大学 (DCU) は、アイルランドのダブリン市中心部から北へ 5km の地点に位置する大学です。1975 年にダブリン国立高等教育機関として設立され、1980 年に最初の学生を受け入れ、1989 年 9 月に法令により大学の地位を取得しました。

アイルランドは、留学生にとって安全で親しみやすい場所と認識されています。ヨーロッパで最も親しみやすい国、世界で 9 番目にランク付けされています。世界平和度指数では、アイルランドが地球上で 8 番目に平和な場所としてランク付けされています。

DCU では、学生の福祉とサポートを最優先事項と考えています。学生カウンセラーは平日の日中に対面式で対応しています。また、必要な場合は、時間外の支援を提供する 24 時間の電話サポートサービスも行っております。

■生活環境

リフィー川の河口にあるアイルランド共和国の首都ダブリンは、豊かな自然と長い歴史を兼ね備えた美しい都市です。多くの文学者を輩出したことでも著名なダブリンの市内には、『ガリヴァー旅行記』の作者ジョナサン・スウィフトゆかりの聖パトリック大聖堂があります。また電車で 30 分も移動すれば、ジェイムズ・ジョイスの小説『ユリシーズ』の舞台となったマーテロ・タワーも見学できます。さらに足をのばせば、初期キリスト教文化を伝えるグレンダロッホの教会群や、5000 年以上前の巨大古墳ニューグレンジにも行けます。

【夏期 SA プログラム】

■授業の内容と特色

授業は 3 週間にわたって実施されます。参加者は渡航前にオンラインの語学力判定テストを受け、その結果に基づいてレベル別のクラスに分けられます。授業はダブリン・シティ大学インターナショナル・アカデミーの教員によって行われ、月曜日から金曜日まで午前 9 時から午後 1 時までの 4 時間、英語による集中授業が組まれています。

授業内容はスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングに加え、語彙、発音、文法を含む総合的な英語運用能力の向上に重点が置かれています。午後には現地見学や文化活動が企画されており、教室での学習とあわせて実践的な英語力の習得と異文化理解を深めることができます。

※今後変更になる場合もあります。

■宿泊施設

DCU キャンパスレジデンス

キャンパス内にあるシングルルーム（専用バスルーム付き）・自炊スタイル
宿泊に関する詳細は以下をご参照ください。

DCU キャンパスレジデンス

<https://english.dcu.ie/accommodation/dcu-glasnevin/>

■費用について

現地費用は為替変動などにより大きく変わりますのであらかじめ余裕をもった資金準備をお願いします。

【必要な費用】

①出発前までに必要な費用

- ・航空運賃（燃油サーチャージ等含む）
- ・海外旅行保険料
- ・運営サポート料（旅行代理店）
- ・帰国時現地空港チェックインアシスト費用
- ・授業料
- ・寮費
- ・空港送迎費

（参考）

- ・現地プログラム費用 約 40 万円程度
- ・旅費・保険料
（過年度実績約 30 万円程度）

※合計約 70 万円程度を予定しておりますが、プログラム費用は変動する可能性があり、航空券や燃油サーチャージなど未確定の要素も多く、さらに為替の影響も大きいため、最終的な費用が大きく変動する場合があります。あらかじめご了承ください。

②出発後に必要な費用

- ・食費
- ・交通費
- ・テキスト代等

【奨学金】

文学部奨学金 支給（返還不要）

（参考）過去の夏季プログラムでは 1 名あたり約 6 万円。

※奨学金支給額は参加者人数により大きく変動します。

University of Victoria

基本情報



【所在地】カナダ ブリティッシュコロンビア州ヴィクトリア

【受入機関】English Language Centre, Division of Continuing Studies, University of Victoria

【HP】 <https://continuingstudies.uvic.ca/>

【対象】2年生以上（応募は1年生以上）

【参加人数】15名

【留学予定期間】9月上旬～12月中旬（約4ヵ月間）

【宿泊施設】ホームステイ

■大学概要

世界的に知られている名門総合大学です。1903年に Victoria College として設立され、1963年に University of Victoria となりました。学生数は約2万人です。国際交流、留学生教育に関して豊富な経験を持つ優れた教育施設で、カナダの豊かな文化と自然に触れながら、英語と英語文化を学習します。ヴィクトリアはカナダのバンクーバーから飛行機で約30分の場所に位置しています。生活の便は良く、治安も良い場所です。



■生活環境

カナダ本土から少し離れたバンクーバー島にあるヴィクトリアは、英国風の建物も多く、趣きのある街並みが特徴です。年間を通して温暖な気候のため、ガーデニングも盛んで、ガーデンシティと呼ばれるほど美しく、観光の町でもあります。ダウンタウンにはショッピングセンターもあります。さらに周囲を海に囲まれているためホエールウォッチングも有名です。

■授業の内容と特色

クラスは習熟度別に6段階に分かれ、授業は月曜から金曜まで一週間に30時間行われます。少人数教育で、ヴィクトリア大学の語学センター（English Language Centre）に所属するインストラクターが、英語を母国語としない EFL（外国語としての英語）のプログラムを担当します。プログラムの後半にはプレゼンテーションをメインとした授業があり、自分の力で英語での発表を準備するノウハウを学ぶことができます。

■宿泊施設

参加学生はヴィクトリアのキャンパス近くにホームステイします。

■費用について

現地費用は為替変動などにより大きく変わりますので、あらかじめ余裕をもった資金準備をお願いします。また、SA 期間中の法政大学の学費はこの SA 費用とは別に必要となりますので、注意してください。

【費用】（4 か月間の場合）

①出発前までに必要な費用

- ・航空運賃(燃油サーチャージ等含む)
- ・海外旅行保険料
- ・運営サポート料（旅行代理店）
- ・帰国時現地空港チェックインアシスト費用
- ・授業料
- ・ホームステイ費
- ・空港送迎費

（参考）

2024 年度：費用合計

約 169 万円

※プログラム費用は変動する可能性があり、航空券や燃油サーチャージなど未確定の要素も多く、さらに為替の影響も大きいため、最終的な費用が大きく変動する場合があります。

あらかじめご了承ください。

②出発後に必要な費用

- ・食費
- ・交通費
- ・テキスト代等

【奨学金】

文学部奨学金と JASSO 奨学金（日本学生支援機構 ※採択された場合に限る）があります。いずれも返還不要です。なお、JASSO に本プログラムが採択され、かつ対象者が採用された場合、毎月 11 万円支給されます。申請、支給方法については、別途ガイダンスでお知らせします。
※奨学金支給額は参加人数により大きく変動します。

（参考）2025 年度：

	JASSO	文学部	合計
JASSO 採用の場合	44 万円	約 16 万円	約 60 万円
JASSO 不採用の場合	0 円	51 万円	51 万円



ヴィクトリア大学・秋学期 SA プログラム体験記①

2023年度 ヴィクトリア
小林 大介

旅行好きな祖母に幼い頃から多様な場所へ連れて行ってもらった経験や、そんな祖母へ恩返しとして英語力を獲得し海外を案内したいという動機をもとに、単位取得と留学を両立できる点が魅力的だったため英文学科の SA プログラムに応募しました。

現地では、寡黙ながらも時たま面白い冗談を言うホストファザー、そしてチャージングで料理上手なマザーのもとでホームステイをさせてもらっていました。非常に優しいファミリーで、休日にはダウンタウンやレストランに連れて行ってもらったり、一緒に庭を掃除したりしていました。SA 期間中は本当の家族かのような時間を過ごすことができました。国や人種、文化を超えて誰かと一緒に過ごすというのは発見が多いもので、今でも忘れられない思い出です。

ヴィクトリア大学での授業は、すべてのコマが英語力向上を目的としたプログラムになっています。ディスカッションや洋書の読解はもちろんのこと、プレゼンテーションや文法の解説など、詳しい内容は多岐にわたります。授業そのものは週五日、半日のみですが、ワークショップやイベントなど英語力向上を図れる機会は、他にも盛りだくさんです。日本人の学生は多いですが、それでもメキシコやサウジアラビアなどからやってきた学生も存在するため、日本人がいることによる安心感と多様なバックグラウンドを持つ人々との交流の機会を同時に獲得できる、非常に良い環境であると感じました。

観光について、ヴィクトリアがカナダの西海岸に存在する小さな島に位置しているためか、周りの学生からの評価は賛否両論でした。それでも、歴史柄イギリスの影響を受けた建物が多いこの街では、北米と欧州の雰囲気混ざり合った非常にユニークな景色を見ることができます。自然も多く歩くだけで気持ちの良い場所でありながら、世界的な大都市であるバンクーバーへもすぐ訪れられるので、個人的には大満足でした。

一方、平日の生活は非常に規則的でした。私は午後のクラスに振り分けられたため、午前中には時間がありました。朝9～10時頃に起床し、前日の授業で出た課題をこなしたのちに昼食を取り、13時開始の授業の為に大学に向かう…といった毎日でした。

平日は大学で異文化に触れながら英語を学び、

休日は異国を観光して回る…という毎日は、今振り返るとあれはもしや夢だったのではないかとこのほど楽しく充実した日々でした。前述したように、多様なバックグラウンドを持つ人々との交流は新しい発見や楽しさで満ち満ちています。見るもの触れるものその全てが新鮮に感じられます。どの点を取っても、「参加してよかった」と胸を張って言う事ができるというのが、私の本プログラムに対する腹藏ない感想です。

さて、この文章をここまで読んだ皆さんは、多少なりともSAプログラムへの興味を持っている方々でしょう。もしあなたが参加に際して英語力やコミュニケーション能力に関する不安を持っているのなら、ここで払拭させてください。行けば大体どうにかかなります。初対面の人と話すのが大の苦手、英語でなんかもつてのほかというような状態でカナダへ向かった私が証人です。帰国後にTOEICで925点を取り、現地で出来た韓国人の友達に会いに韓国に行ってしまうくらいには社交性と語学力を獲得できました。これが果たしてずっと続くかどうかは私にもわかりませんが、とにかく海外での生活は少なからずあなたの人生を楽しいものにします。旅立つ皆さんを応援しています。



ヴィクトリア大学・秋学期 SA プログラム体験記②

2023年度 ヴィクトリア
竹野 和

私が SA 留学に参加した理由は、英語に触れることが好きで留学にあこがれていたことと、日本とは異なる文化を実際に体験したいと考えていたからです。

私のホームステイ先は、ホストマザー 1 人のみで、他のルームメイトもいなかったのが基本的には私とホストマザーの 2 人での生活でした。最初は一対一の関係に緊張を感じるが多かったですが、慣れてくると会話も 2 人で弾むようになり、よくテレビを見ながらおしゃべりをしました。そのおかげもあってか、英語力の上達を実感することができました。

授業は基本的に午前クラスと午後クラスに分かれていて、私は午前クラスだったので朝 8 時 30 分から昼頃までが授業時間でした。私のクラスでは、本を読んだり、文法について問題を解いたりすることももちろんありましたが、とにかくたくさんプレゼンテーションを行いました。一か月が過ぎたあたりからとにかく毎週毎週プレゼンテーションの課題に追われていました。大変な作業ではありましたが、自分の英語に自信がつき、人前に立つことに慣れることができました。グループプレゼンでは、そのグループメンバーとの絆を深めることができました。

ビクトリアは小さい街ではありますが、自然が豊かで動物がたくさんいます。小さい街のため、電車はありません。バスさえあれば基本的にどこへでも行くことができます。冬場はホッケーの試合が開催されるので多くの生徒が観戦に訪れていました。私自身、スポーツ観戦が初めての体験だったので、友達ととても楽しく過ごすことができました。またバンクーバーにもフェリーで片道一時間半ほどで行くことができ、フェリー代も高額ではないので、簡単に訪れることができます。

私の一日のスケジュールは、朝 6 時半ごろに起床、7 時半ごろに家を出てバスに乗り学校に向かいます。ステイ先のお家の最寄りのバス停から大学までは 10 分程度しかかからず、かなり家から近い方でしたが、8 時半に大学につくような時間のバスだと、混雑していてバスはいくらバス停に待っている人がいても、スルーしてしまうので、私は早めに家を出ていました。そして何より、バスは基本的に時間通りには来ません。そのため時間に余裕を持った行動を心掛けていました。授業が終わってからは、昼食をとってから課題をした

り、時間があれば友達と学校の近くにあるビーチまで遊びに行ったりしました。課題の量はクラスによって違いますが、私は課題に常に追われている方だったと思います。

実際に SA で留学をしたことで、自分が想像していた何倍もの出来事を経験することができました。英語を学ぶことはもちろん、そこで体験したこと、出会った人たちも含め行かなければ出会うことがなかったですし、帰国が近づいてくると、帰りたいと思えるほど多くの経験ができました。留学はしたいけど不安だという方も多くいらっしゃると思いますが、行きたい気持ちが少しでもあるならぜひ思いっきり参加してみてください。人には人の体験があって、同じものは存在しないですから、ぜひ自分だけの体験、発見を見つけてください。



スタディ・アブロード・プログラムのサポート体制

■海外旅行総合保険

SA プログラムの参加学生は、法政大学が指定する海外旅行総合保険に加入していただきます。現地でのケガや病気の時、あらかじめ指定された病院（キャッシュレス指定病院）で診察を受ければ、その場で自己負担することなく治療が受けられます。指定病院以外でも、領収書と診断書があれば、帰国後に一定の範囲内で保険金を受け取ることができます。歯科治療に関しては保険対象外で、その他にも保険対象範囲は定められています。詳しくは出発前の各種ガイダンスでお知らせします。

■24 時間対応の電話アシスタンスサービス

① 病気やケガの対応
現地で病気やケガの際には、現地大学スタッフや、寮、ホームステイの担当者に、病院を紹介してもらうことになります。しかし、外出先や遠出をしている際に、思わぬ事故や病気、ケガに見舞われる可能性もあります。そのようなときに、直接フリーダイヤルに電話すれば、近くの病院を探してくれたり、適切なアドバイスを受けたりすることができます。

② トラブルの対応
留学中にトラブルに見舞われたり悩み事などがある場合、通常は現地大学の担当スタッフが相談にのります。日本語で直接相談する必要がある場合は、SA ポータルサイトを利用して法政大学（学科の SA 担当教員、国際交流課および文学部事務担当職員）に連絡をとることができ、緊急の際には 24 時間対応の電話アシスタンスサービスを利用できる体制をとっています。

■SA ポータルサイト

SA 留学期間中に、日本にいる法政大学の教職員に質問や相談がある場合、国際交流課に直接電話をかけることもできますが、国際電話代や、時差、窓口時間の関係上、難しいケースがあります。そのようなときは、SA ポータルサイトにアクセスして、問い合わせをしてください。出発前に SA 参加者全員に ID とパスワードを配布します。

なお、留学期中、このポータルサイトを使用し、月例報告（秋学期 SA 参加者のみ）、旅行

届を提出することが、SA 参加者の義務になっています。

■グローバル育センター国際交流課

国際交流課は、主に渡航関係、寮やホームステイなど現地での生活に関する事柄を中心に SA に参加する学生をサポートします。それ以外の SA 全般にかかわることについても相談にのりますので、SA に関して、質問や相談があるときは、気軽においでください。

<問い合わせ>

〒102-8160

東京都千代田区富士見 2-17-1

（大内山校舎 2 階グローバル教育センター内）

Tel: 03-3264-9408 Fax: 03-3264-9256

E-mail: sapro@hosei.ac.jp

■文学部担当

文学部担当では、事前指導、奨学金申請、単位認定手続き、出発後の英文学科生への連絡内容伝達（ゼミや卒論関係）、課題連絡・提出や帰国後報告会の案内・実施等を行います。何か困ったことや気になることがありましたら、気軽に文学部窓口あるいは大学付与のメールにてご相談ください。

<問い合わせ>

Tel: 03-3264-9324

窓口時間

月～金 9:00～17:00（11:30～12:30 を除く）

土曜日 9:00～12:00

英文 SA 単位読み替えに関するガイドライン

文学部 英文学科

【ヴィクトリア参加者対象】

英文 S A 単位読み替えに関するガイドライン

S A で取得した単位は以下のガイドラインに則って教授会において決定される。

① 認定単位数

- 1) S A で取得した単位は、年度ごとに 22 単位まで法政大学文学部英文学科専門科目の単位、または ILAC 科目「English 3-II」として認定されることがある。
- 2) 認定される単位数は、授業時間数に応じて、所定の計算式に基づいて認定される。
- 3) ただし、音楽や美術の実習などの実技科目の単位については、2) で規定された単位数と S A 先大学の単位数の両方を考慮して単位数が認定される【原則として 2) で規定される単位数の 6 割程度】。

② 科目系列

- 1) 原則として選択必修 B 群の「S A 認定科目 (B)」として認定される。
- 2) 取得した科目の内容によっては、8 単位を上限として選択必修 A 群の「S A 認定科目 (A)」として認定されることがある。申請する場合は、選択必修 A 群に該当すると考える根拠がわかるよう、授業内容についての説明も含めること。
注) 特段の理由がない場合は 4 単位を上限とする。
- 3) 卒業論文に直接関連する科目として位置づけられている選択必修 C 群の「S A 認定単位 (C)」として認定されることはない。ただし、取得した科目が卒業論文に直接関連する科目であると指導教員が認定する場合にかぎって、選択必修 C 群として認定されることがある。
- 4) ILAC 科目「English 3-II」も認定の対象となる。認定を希望する場合は、S A 先で 4 技能 (reading, writing, speaking, listening) が連動した英語科目の単位を取得すること。

① 申請方法

- 1) 1st term 履修決定のころ (10 月頃)、文学部担当よりメールで送られる「単位認定申請書」にて申請する。シラバス、時間割もあわせて提出する。
- 2) 長期参加者は、2nd term 履修決定のころ (2 月頃) に 2nd term 分の「単位認定申請書」あるいは「授業報告書」(認定可能単位数をすでに 1st term で達した方のみ) にて申請、提出する。